

ちょっと気になった大門道を

「隠し道」も気になったが「大門道」も気になった。大門の下の方に車を止めて鍛冶谷川を渡り浄水場の方に歩き始めた。すぐ左の平地には数種類の杭が打たれていた。途中で木が倒れていたり笹が覆い被さったりはしていたが確かに道らしい。そばをトラックが通った。どの辺りか気になったがそのまま道沿いに歩いていくと自動車道にぶつかった。そこはJロードを過ぎタイヤ廃棄の警告板付近であった。その流れから道を探したが確認できなかった。そこから鍛冶谷川に進んだ。砂防工事の道は笹藪のため途中で分からなくなってしまった。大きな砂防ダムを越えるとそこには山葵がいくつか群生していた。少年科学館の館長の川端さんが種を撒いたとも言っていたが河床だけでなくその上にもあるので自生ではと思えた。そこはあのゴミの多い場所との分岐点付近だが、あまり気にならなかった。『鍛冶谷滝』は目測で7メートル程度であろう。見上げるとダイモンジソウも生えている。そこから登れそうなところを、木々を頼りに登った。上がるとそこはコンクリート吹き付けの最上部で道跡が残っている。『農林省』の標柱が残っていた。



イワカガミ

標柱『城山古道 大門道』が・・・

4月に立てて以後、標柱周辺の笹も背丈を伸ばしました。気になったある日少し刈りました。でも、その後の雨でまた伸びているでしょう

『大門道』の思い出

30年ほど前のことである。『なだ浦の生い立ちを探る会』が組織され、その中心になっていたのが畑中さんで、登山が趣味の私を城山を案内してくれた。何人かで城山に上った。

何度も自動車道を横切って山道を歩いた。最初は『Jロード』の先辺りで杉林の中に入り、沢沿いに歩いた。沢を上ると再び自動車道とぶつかるが、また沢に沿って行くと、そこは『戦没船員の碑』の下であり、その石積みの傍の急傾斜を上る。急な道を上って小高いところに立つとそこはコンクリート吹き付けの大岩壁のてっぺん辺りである。谷筋を横切る形で歩くと自動車道に出たがすぐ杉林の中を上った。今は大きな杉林だがその頃は辺りも見渡せた。自動車道を横切ってもすぐに自動車道に出た。その辺りで縄文遺跡の話聞いた。その時代のゴミ捨て場をピットと言う。黒っぽい土の窪んでいる所の底に縄文遺跡が発見されることを知った。畑中さんは鳥屋の大槻で石器を発見したとのことであった。道路工事中の切通しで杉林との境に道は続き、その林を歩くと自動車道へと出る。

その頃は遊歩道はなかった。尾根沿いに歩いて頂上に行ったようである。